



「生きる力」を

育むために

②

思いの種を届けて 奥さんを笑顔に！

花まる学習会代表

高濱 正伸

Takahama Masanobu



「花まる学習会」の設立当初、びっくりしたことがあります。お母さんたちがみんなイライラしているように見えたのです。

お母さんというのは、いつも子どものことを心配しているものです。だから、イライラしてしまうことも多いのだらうと思います。それはきつと、お母さんたちに昔から共通する悩みなのではないでしょうか。

ただ、昔は地域での交流があり、近所には経験豊富な先輩お母さんがたくさんいました。

お母さんがイライラしたり、不安になつたりしても、先輩お母さんが「分かる。私も最初はそうだったよ」と共感してくれていました。そうするとお母さんのイライラや不安な気持ちやスツと落ち着くわけです。

しかし、今はそういう地域のつながりが失われ、「一人きりの子育て」をしているお母さんが多くなつ

てしまっています。

そこで重要になってくるのが、お父さんの役割です。お父さんには、「奥さんがどうすれば笑顔になれるのか」という問題に取り組んでほしいのです。



以前、私の子どもが1週間熱を出したことがあります。熱が上がって、下痢もひどくて本当に大変な状況でした。

ところが、私はずっと講演会で全国を駆け回っていて、家に帰ることができませんでした。

1週間経って子どもの熱が落ちていた頃、やっと家に帰ることができました。

すると、妻が見るからにすごくイライラしていました。そして「私、1週間一人で看病して嫌になっちゃった。明日から旅行にでも行ってこようかな」と言いました。

私が「どうぞどうぞ、行ってください」と言うと、妻は「何、その言い方？」と私に食ってかかったのです。

そこで私は言いました。「だって、君の今の状態って爆発寸前だと思っから、少し休んでさたらいいと思っんだよ」と。

すると、それまで激昂していた妻の様子が変わりました。そして、「だよね。このままだと危ないよね」と言っつて、落ち着いてきました。

大事なのは、夫が「いつも見ているよ。君のことを心配しているよ」という思いの種を奥さんに言葉にして届けることです。

妻は1週間子どもを看病したことが嫌なわけじゃなかったのです。それを一人でやるしかなかった状況、誰も分かってくれない状況に腹を立てていたわけです。



つまり、私がお父さんたちに伝えたいのは、「奥さんが孤独の中で子育てしているという事に気づいてください。そして、何とか奥さんがニコニコできるように努力してください」ということです。

「今日、いいの見つけてさ、君に買って帰ったら喜んでくれるかと思っつて」と夫がお土産を買っつてくる。それだけで奥さんはとても喜んでくれる場合もあります。たとえ飴玉1個のお土産でもいい。「夫は私のことを考えてくれてるんだ」ということが嬉しいのです。

奥さんに対するねぎらい、気づき、気遣い、うなずき、こういうことが何より大事です。そうやって、奥さんに「あなたのことを思っつています」と伝えてあげてください。

(花まる学習会神奈川事務局が横浜市で主催した講演会より/取材：山本関東特派員、編集：岩屋佳朗/前号1面の続編です)